



循環利用したい草木のエネルギー

12月から3月頃まで、甲府盆地はいつも霞のよ
うなものに覆われている。一見するとのどかな風景に見えなく
もないが、霞のようなものの正体は果樹の剪定枝を焼却する時
に出る煙である。山梨県は言わずと知れた果樹王国であるが、
ぶどう、桃、スモモの出荷額は全国一。ここからは大量の剪定
枝が排出されるが、多くは果樹園に大きな穴を掘って焼却処理
をする。野外焼却は、廃棄物処理法で禁止されているが、農林
業に関する焼却等に限り例外的に認められているものだ。県は
4パーミル運動を展開し、無煙炭化器等を使って炭素を土壌に
貯留する運動をすすめてはいるが、冬の風物詩に変化はほとん
どない▼自分の畑とか庭には、梅や柿、栗、かりん等の果
樹も植えているが、年が明けて落ち着いたころの仕事がこれら
の剪定となる。剪定枝は無煙炭化器で処理し、残った炭は畑に
ばら撒いているが、剪定するたびに感じるのが、剪定枝の膨大
な量であり、木が持つ旺盛な成長力だ。したがって剪定にかか
る手間、労力も相当なものがあり、果樹農家は農閑期とは言え
ないほどに忙しさに追われている▼冬の大仕事は剪定であるが、
春から秋にかけて手間を要するのが草刈りである。温暖化にと
もなつて雨の降り方も変化してきていることも手伝ってか、年々
雑草の量が増え手ごわくなってきているように感じる。一反ほ
どの畑につき鎌を使って草刈りしていたが、旺盛な雑草の伸び
に対応が追い付かなくなって、昨年、とうとう草刈り機の購入
を余儀なくされた▼剪定枝はかまどや風呂焚き等のたきつけに、
雑草は家畜のえさに活用し循環させていた時代ははるか遠い。
炭素貯留や菌ちゃん農法等々、循環型の対処法の普及が急がれ
ている。

(土着菌)